

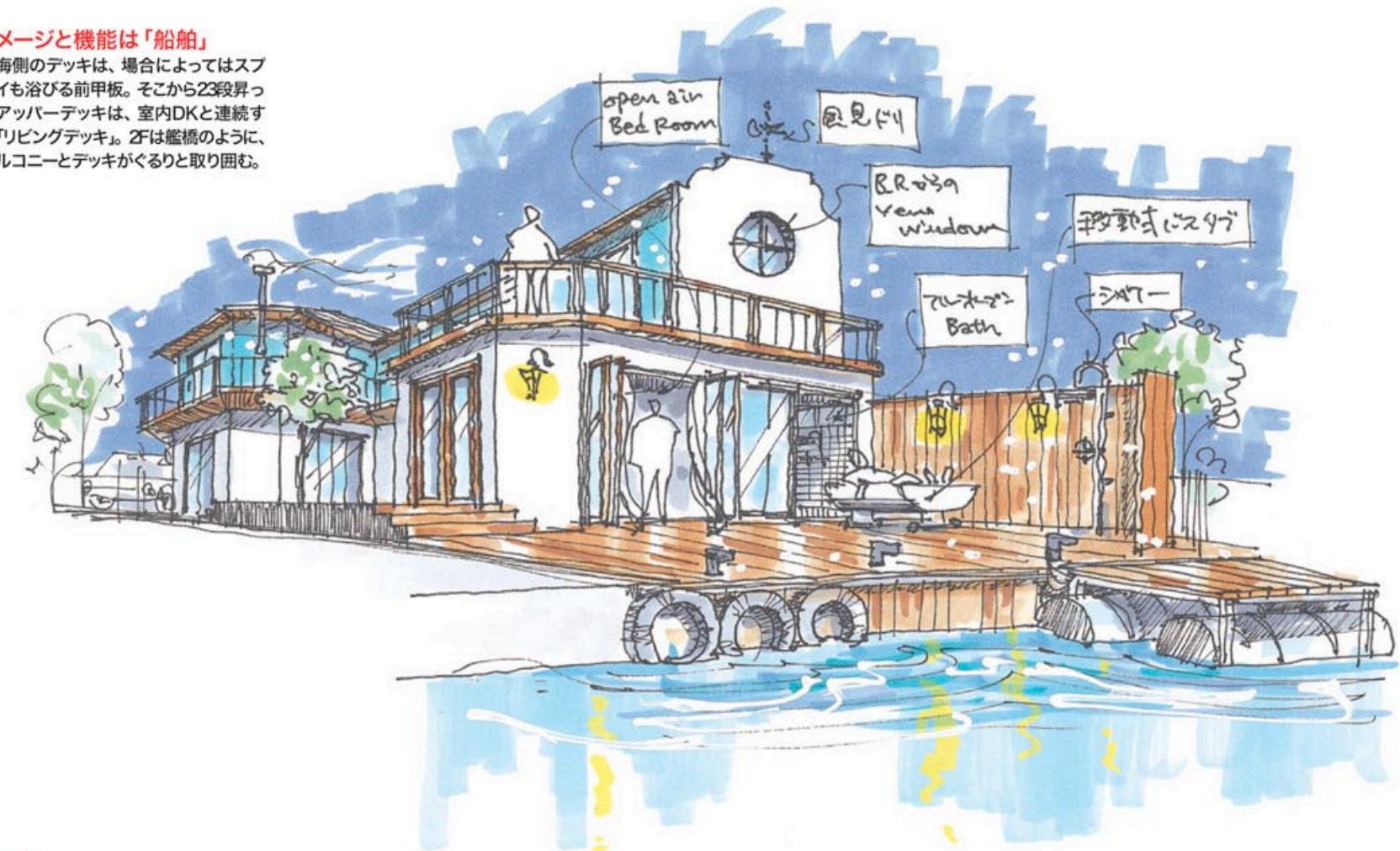
海との触れあいが(ダイレクトに、  
ある種のヴェール越しに)幾重もある家。

滝本学(滝デザイン研究所)  
TEL:045-663-0061  
<http://www.takihata.com>



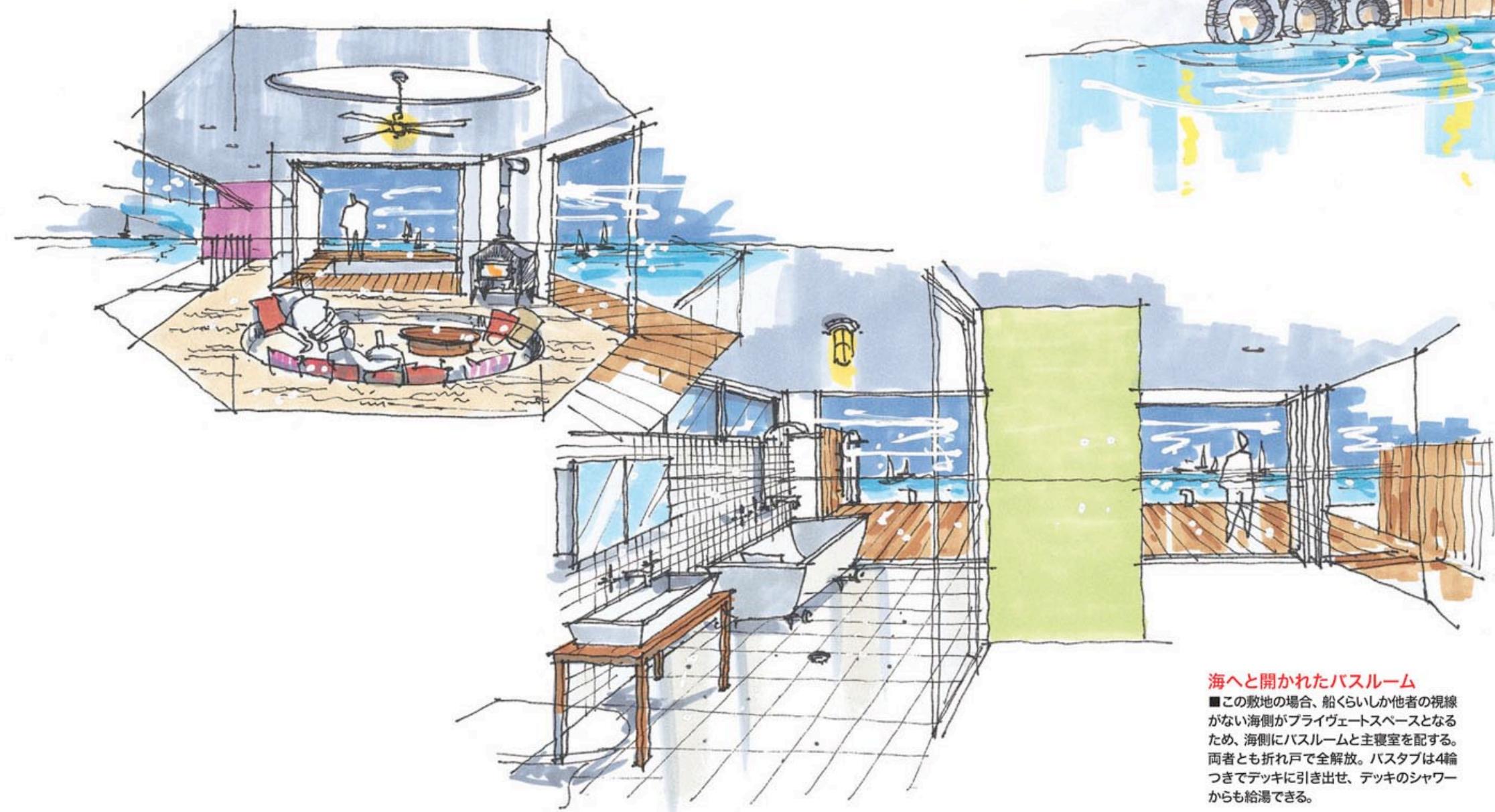
■43歳のバリバリ。米国で建築を学び、モーターは「住宅は生活の良さの増幅装置であるべき」そでなければリスクを負って家を建てる価値はない。個人住宅のみならず、集合住宅、洋館、リゾートのコンセプトメイクからアーチitectural designまで、広汎、かつ国際的に活躍している。

**イメージと機能は「船舶」**  
■海側のデッキは、場合によってはスプレイも浴びる前甲板。そこから2段昇ったアッパーデッキは、室内DKと連続する「リビングデッキ」。2Fは艦橋のように、バルコニーとデッキがぐるりと取り囲む。



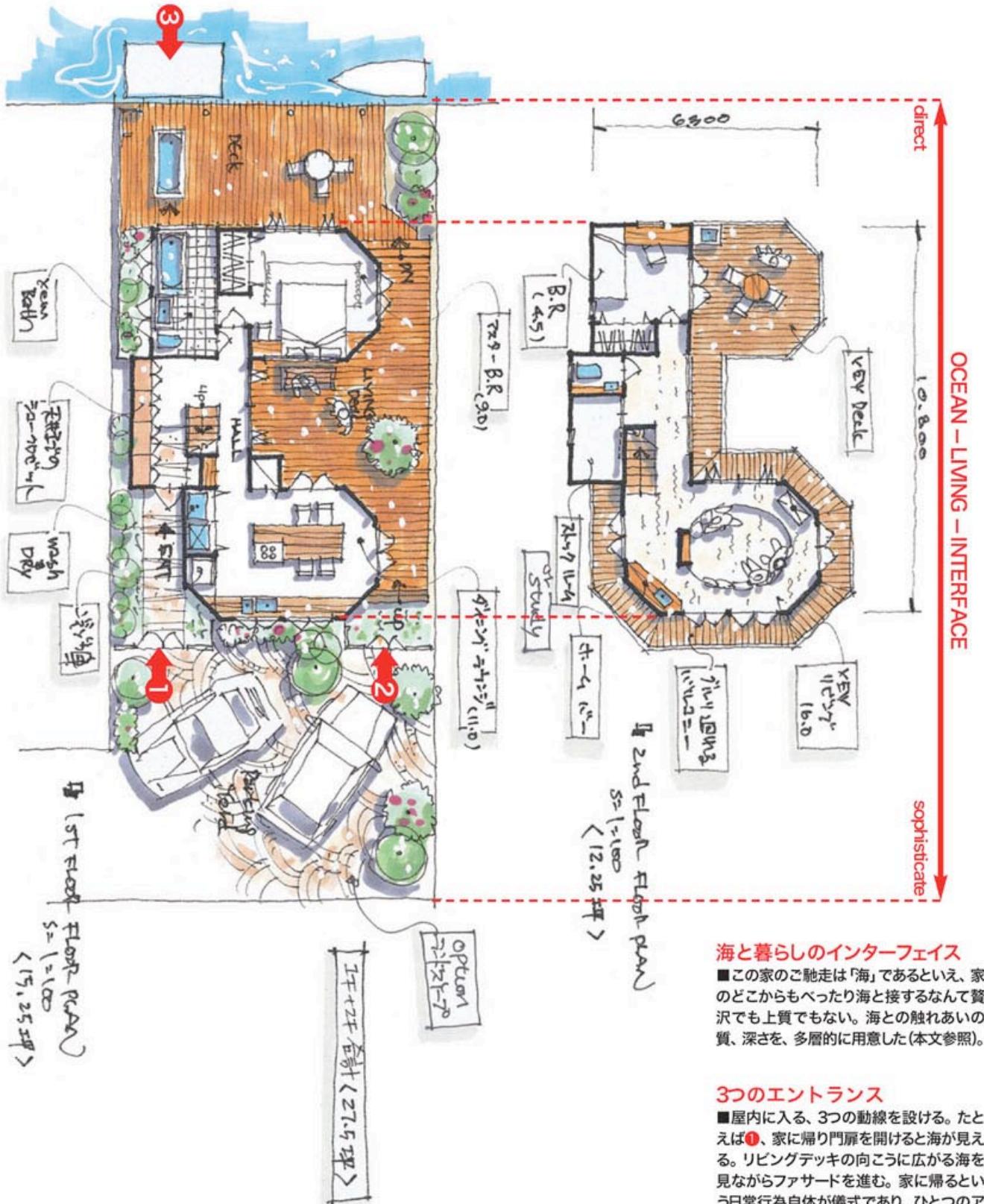
### 2Fラウンドリビングより 「額絵的」オーシャンビュー

■16畳のリビングにソファを置くと用途が限定されてしまう。床を格子に掘り、どこにでも座れるようにすることで、マルチユース、広さ、360度パノラマが得られる



### 海へと開かれたバスルーム

■この敷地の場合、船くらいしか他の視線がない海側がプライベートスペースとなるため、海側にバスルームと主寝室を配する。両者とも折れ戸で全開放。バスタブは4輪つきでデッキに引き出せ、デッキのシャワーからも給湯できる。



### 海と暮らしのインターフェイス

■この家のご馳走は「海」であるといえ、家のどこからもべったり海と接するなんて贅沢でも上質でもない。海との触れあいの質、深さを、多層的に用意した(本文参照)。

### 3つのエントランス

■屋内に入る、3つの動線を設ける。たとえば①家に帰り門扉を開けると海が見える。リビングデッキの向こうに広がる海を見ながらファサードを進む。家に帰るという日常行為 자체が儀式であり、ひとつのアミューズメントになる。  
②は、鉄扉と玄関を介するパブリックでフォーマルな(普通の)エントランス。  
そして③、海に出て、帰るときはここから。お父さんのヨット仲間が遊びに来て(奥様に気を使うことなく)デッキで一杯飲んで帰るとか。プライベートエントランス。

■「贅沢さて何だろう」と、改めて考えたんですね。それは、お金がないと実現できないものではないはず。でないと——設計士ではなく——僕ら建築家、デザイナーの存在意義がないですから(笑)。この家のいちばんのご馳走は「海」ですね。だからといって、家のどこからもべったり海が見える、海に直接的に接するというのは——ビーチリゾートはだいたいそういう造りになつていますが——贅沢でも上質でもない。言つなれば3食、幕の内弁当みたいなもんです。げんなり。朝はトラッドな和食で、昼はイタリアン、夜は鍋、みたいなほうが贅沢でヘルシーですよね。家のどこにいても、海の匂い、音、気配は感じる。けれど、海との接し方の深さ、質、いわばインターフェイスは、それこそ日替わりで一月保つほど用意しよう。

もうひとつ、「現実」は2000万の予算です。建坪を抑える必要がある。じつさいこのプランは27・5坪に抑えています。けれど引き算で、ストイックにはしたくない。ひとつひとつのかずはミニマルだけど、使い勝手はマキシマムに。そういうのって贅沢じゃないかも知れないけれど、必要最小だけ充分な、よく使い込まれた工具セットみたいで、上質だと思うんですね。以上2点が、この家の主題です。

主寝室は海に向かつて全開放する折れ戸を持ち、朝、シープリーズで揺れるカーテンにくすぐられて目覚めるとか、砂浜で眠つているような心地よさを得られます。

主寝室に通ずるバスルームのバスタブにはゴムウィールを付けてデッキに引き出せるようにし、デッキにも湯シャワーを設けます。朝、ヨットで海に出たお父さんがデッキのシャワーで潮を落とし、朝風呂、直接アクセスできる主寝室で着替え、という動線ですね。山側はこの家のパブリックスペース。1FにはDKを設け、外部からは良い感じでこの家の暮らしがほの見えます。

I FにはDKを設け、外部からは良い感じでこの家の暮らしがほの見えます。山側はこの家のパブリックスペース。1FにはDKを設け、外部からは良い感じでこの家の暮らしがほの見えます。山側はこの家のパブリックスペース。1FにはDKを設け、外部からは良い感じでこの家の暮らしがほの見えます。山側はこの家のパブリックスペース。1FにはDKを設け、外部からは良い

次ページの平面構成をご覧下さい。

■「贅沢さて何だろう」と、改めて考えたんですね。それは、お金がないと実現できないものではないはず。でないと——設計士ではなく——僕ら建築家、デザイナーの存在意義がないですから(笑)。

海とのインターフェイス、で言えば、もともダイレクト、FACE TO FACEなのは1Fの海に面したデッキです。ここは潮風も直接当たるし、場合によつては飛沫もかかる。この家の場合は、他の視線が少なく、家族と親友くらいしか出入りしない海側(3つのエントランス参照)がプライベートになつてゐる。両者は、海とのインターフェイスについてもデッキに準じ、

主寝室は海に向かつて全開放する折れ戸を持ち、朝、シープリーズで揺れるカーテンにくすぐられて目覚めるとか、砂浜で眠つているような心地よさを得られます。

主寝室に通ずるバスルームのバスタブにはゴムウィールを付けてデッキに引き出せるようにし、デッキにも湯シャワーを設けます。朝、ヨットで海に出たお父さんがデッキのシャワーで潮を落とし、朝風呂、直接アクセスできる主寝室で着替え、という動線ですね。山側はこの家のパブリックスペース。1FにはDKを設け、外部からは良い

と連続する空間でフロアレベルも抑え、ランチワゴンを引き出せたりします。ここはあえて主寝室によつてガードされ、海からの光と風の一部が遮られますが、スケッチではベンチを置いていまが、気象や気持ちの状態によつて、ここで読書したいときもあるでしょう。

通常は、1Fプライベート、2Fパ

ブリックというふうに振り分けるので

すが、上記コンセプトにより、リビングはDKと分離し、2Fに置きました。

このリビングからは、海はビューデッキと窓越しに「額縁」のように見えます。

16畳とミニマルであるゆえに、ソファを置くとソファに占有され、使い勝手が限定されてしまします。そこでフロアを掘り、カーペットを敷き詰めました。これにより、どこに座るか(背もたれの有無)により、海が見えたり、山が見えたり、「使い勝手はマキシマムに」。

この敷地は自然林のマウンテンビューも悪くないんですね。ここには暖炉を置きたい。テレビは可搬式のカウンターの上に、SONYのエアボードとか液晶小型のを。オーディオもBOSEあたりのコンパクトで高音質なものを。DKと分離してくるんで水回りが欲しいけど、簡易キッチンにしたらブア、でもホームバーなら贅沢でしょ。そのあたりは演出で抜かりなく。

2Fの海に面した子ども部屋からは海

が見えません。海ではなく、高い位置に設けた丸窓(舷窓をイメージ)から空を見せたい。……机に向かつているとき、海が見えるという機能が必要で

しょうか。机を離れ、部屋に隣接する

ビューデッキに出るとこの家いちばんのパノラマで海が広がる……。

1Fのデッキは、ヨットでクルージングしているように、海面レベルにいる2Fデッキには、遠くまで見渡せるよなパノラミックビューをえたいで

すね。

前庭はバーベキングではありません。コンクリートを打つてタイヤ止めを設けて駐車場にしてしまうと、車を出すとただの空き駐車場でしかありません。

プランでは樹を植えていますが、車を停めることだけを考えれば樹は邪魔な

んですけどね。ハワイのビーチバーク

で、樹と樹の間に無造作にざくざくと

車を停めて、その先バーベキューし

てるようなイメージ。ピロティとい

うか、プライベートな公園といいますか。これも多用途に使つて狭い敷地を活かし、贅沢に暮らす一法ですね。

コンセプトを述べましたが、玄関ホールの天井まであるクローゼット、ストックルーム、ランドリーなど、実用面もじつくり詰めています。